

読売新聞 きょう（9月22日）のイチ押し

1面・3面など プーチン氏、予備役30万人動員令

ロシアのプーチン大統領がテレビ演説で、ウクライナ侵略作戦を巡り、予備役を対象とした部分的な動員を発令したと発表しました。招集対象は30万人。ウクライナ軍の反転攻勢にさらされ、これまで避けていた動員拡大に追い込まれた格好です。

- ★ プーチン氏は、ウクライナ東部ドンバス地方の占領地域で親露派勢力などが実施する住民投票でロシア併合の結果が出れば支持すると表明。「領土と国民保護のため、あらゆる手段を使う」とも述べ、併合地域の保持のためには核使用も辞さないと示唆しました。
- ★ 国連総会の一般討論演説では、岸田首相や仏独などの首脳がロシアのウクライナ侵略を厳しく批判。バイデン米大統領は、親露派などによる住民投票は「国連憲章の極めて重大な違反だ」と指摘しました。

社会面など 「ママ友」に懲役15年 福岡5歳児餓死事件

福岡県篠栗町で5歳の男児を餓死させたとして保護責任者遺棄致死罪や詐欺罪などに問われた男児の母親の「ママ友」、赤堀恵美子被告の裁判員裁判の判決があり、福岡地裁は求刑通り懲役15年を言い渡しました。

- ★ 判決は、赤堀被告が虚言で母親を心理的に支配し、男児の食事を抜くよう指示するなど虐待を主導したと認定。赤堀被告は無罪を主張していましたが、「供述は不自然で信用できない」と一蹴しました。
- ★ 虐待死事件で母親の知人が保護責任者遺棄致死罪に問われるのは異例です。同罪に加え、現金約200万円をだまし取るなどの詐欺、窃盗罪も認定され、懲役5年の判決だった母親を大幅に上回りました。

他紙と比べて

新型コロナウイルス流行の「第7波」はようやく新規感染者数が減少に転じ、落ち着きつつありますが、感染拡大時にいつも深刻な状況に陥るのは高齢者です。これまでの「波」で浮き彫りになった課題をいかに解消し、対策を進めるか。「くらし・家庭」（15面）の連載「コロナ禍の高齢者」で2回に分けて考察します。